

共同研究室

昭和四七年度第四回研究会（六月三十日）

▼テーマ マルクス価値論の成立過程

——『経済学ノート』から『哲学の貧困』まで——

報告者 岡崎栄松氏

報告要旨 この報告は、『経済学ノート』、『経済学・哲学手稿』、『聖家族』、『哲学の貧困』などを文献的素材としながら、マルクス価値論の成立過程をいわばマルクスにおける労働価値説のスキズの段階からリカードの段階への移行の過程として跡づけることをねらいとしたものであったが、その詳細は近く発表予定の拙論において展開されることになっていたので、ここではたんに報告の目次のみをかかげしておく。

一 若干の予備的考察

- (1) 『経済学ノート』と『経済学・哲学手稿』の執筆順序
- (2) 『国民経済学批判大綱』におけるエンゲルスの価値論

二 「第一段階」〔ノートⅠ〕～「ノートⅢ」および「第一手稿」におけるマルクス価値論

三 「第二段階」〔ノートⅣ〕、〔ノートⅤ〕、「第三手稿」および

共同研究室

「第三手稿」におけるマルクス価値論

- (1) マルクスによるエンゲルス『大綱』の要約

(2) 「リカード評注」〔ノートⅣ〕

(3) 「ミル評注」〔ノートⅣ〕、「一八四四年夏」——労働価値

説への批判（＝接近）

(4) 「マカロック評注」〔ノートⅤ〕

(5) 「第二手稿」

(6) 「第三手稿」——労働価値説への積極的評価（＝著しい接近）

四 『聖家族』（第四章第四節「ブルードン」）におけるマルクス価値論

五 『哲学の貧困』におけるマルクス価値論——労働価値説の成立

昭和四七年度第五回研究会（九月二十二日）

▼テーマ ドイツ産業資本成立過程の研究をめぐって

報告者 川本和良氏

報告要旨 問題の限定（与えられた課題）

一、経済史の研究史とドイツ産業資本成立過程の研究

一九五（四三九）

実証史学の導入、歴史学派理論の導入、日本資本主義論
争と比較経済史学の形成、戦後改革とドイツ経済史研究、
六〇年安保とその後推移

- 二、ドイツ産業資本成立過程の研究をめぐって
- 三、今後の研究目標の設定

現在における日独経済比較の視点、フィッシャー論争と
西ドイツ歴史学会の状況、今後の研究目標

昭和四七年度第六回研究会（十月十三日）

▼テーマ 社会主義的所有論と「民主主義」

——生産関係の体系における企業の位
置づけに関連して——

報告者 芦田文夫氏

報告要旨

〔一〕 社会主義的所有論・経済的利害論・価値論

(1) 所有論のあたらしい展開

一、スターリンの命題とその批判

二、経済改革と所有論

三、経済学の対象と方法をめぐる論争

四、所有論と生産関係の体系論

(2) 経済的利害論のあたらしい展開

一、「経済的利害」という概念

二、経済的利害と民主集中制原則

(3) 価値論のあたらしい展開

一、商品生産の必然性論

二、社会主義的生産関係と経済的連関の二つの形態

〔二〕 社会主義的所有と「民主主義」

(1) 社会主義と民主主義

(2) 社会主義的所有の構造

(3) 「社会（国家）—企業—個人」の相互関係と民主集中制

原則

（内容の詳細は、拙稿「社会主義的所有論の若干の問題」△経済▽一九七三年一号を参照）